



国指定重要文化財旧済生館本館

# 郷土館だより

No.100

令和 8. 3. 31 発行

〒990-0826 山形市霞城町 1 番 1 号  
山形市郷土館 TEL/FAX 023(644)0253

URL <https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/bunkasports/bunkazai/1006705/1008027.html>

## 郷土館だより第100号の刊行にあたって

山形市長 佐藤孝弘

郷土館だより第100号の刊行を記念して、ごあいさつ申し上げます。

山形市は東を奥羽山脈、西を白鷹山地に囲まれた村山盆地の南東部に位置し、最上川の支流である馬見ヶ崎川や立谷川、須川などが流れる美しい自然環境の中で、様々な歴史文化が育まれてきました。

また、これまで山形市は、戦災や震災の被害を受けておらず、数多くの文化資産が現存しており、山形市郷土館(旧済生館本館)も、その中の一つであります。明治11年9月に初代県令三島通庸の構想のもと、県立病院として竣工され、同年12月に太政大臣三条実美により「済生館」と命名されました。明治37年からは市立病院として運営され、昭和41年には、明治初期における擬洋風建築の歴史を示すものとして価値が高いことから、国の重要文化財に指定されております。また、昭和44年には霞城公園へ移築復元され、昭和46年からは「山形市郷土館」として開館し、いまに至っております。

現在、山形市では、「山形市発展計画

2030」に2大ビジョンである「文化創造都市」「健康医療先進都市」を掲げ、山形市が持つ強みを活かしながら、選ばれるまちづくりを推進しております。山形市郷土館のような歴史的価値のある建造物も「文化創造都市」である山形市の価値ある地域資源であることから、令和6年に「山形市文化財保存活用地域計画」を策定し、市内に数多く残る文化財の保存・活用を着実に推進しているところです。

今回、第100号を迎えた「郷土館だより」は、当施設の歴史や日ごろの活動などについて紹介し、その価値や魅力を広く発信することを目的に発行しております。今後も150号、200号と継続して発行していけるよう、魅力ある誌面づくりに取り組んでまいります。

結びに、第100号の刊行にあたり、これまで編集・執筆に携わってこられた関係者の皆様、そして日頃より山形市郷土館の活動を支えてくださっている多くの市民の皆様に、心より感謝申し上げます。

## 予言！旧済生館本館が国宝になる日…

東北芸術工科大学 歴史遺産学科  
教授 志村 直愛

昨今映画でも話題となっている国宝。当の歌舞伎の世界では、その演者が重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝に認定され、我が国固有の財産としてその技術の保存継承を国が支えている。私たちにとって、より身近な存在である建造物＝建物にも国宝となっているものが数多く存在するのはご存知の通り。こちらは形のある有形文化財で、重要文化財に指定された中でも世界文化の見地から特に価値の高いものを国宝に指定している。

国宝建造物は現在国内に303棟。そこそそ多く感じられるかもしれないが、全国の分布状況を見ると、地域による偏りがある。都道府県別に見ると、さすが古都！京都が81棟、奈良が71棟で1-2位を占め、次点は滋賀の24棟。あとは10棟台以下が並び、国宝を持たない県が11、1棟のみの県が9もあるのだから、やはり数少ない貴重な建物ばかりといえる。山形県には羽黒山五重塔が1棟で、東北では宮城が4棟、岩手、福島が同じく1棟、青森、秋田にはない。実は関東圏でも日光のある栃木県が10棟を誇るが、東京は2棟、古都鎌倉のある神奈川にも1棟しかない。よく文化財建造物は「西高東低」と言われ、西日本に多い傾向があり、東日本ではますますその価値は高いといえそうだ。

ところで建造物には古い物ほど国宝になり

| 県名  | 棟数 | 県名  | 棟数 | 県名  | 棟数 | 県名  | 棟数  |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|-----|
| 北海道 | -  | 東京  | 2  | 滋賀  | 24 | 香川  | 2   |
| 青森  | -  | 神奈川 | 1  | 京都  | 81 | 愛媛  | 3   |
| 岩手  | 1  | 新潟  | -  | 大阪  | 8  | 高知  | 1   |
| 宮城  | 4  | 富山  | 5  | 兵庫  | 14 | 福岡  | -   |
| 秋田  | -  | 石川  | -  | 奈良  | 71 | 佐賀  | -   |
| 山形  | 1  | 福井  | 2  | 和歌山 | 7  | 長崎  | 3   |
| 福島  | 1  | 山梨  | 2  | 鳥取  | 1  | 熊本  | 6   |
| 茨城  | -  | 長野  | 11 | 島根  | 3  | 大分  | 4   |
| 栃木  | 10 | 岐阜  | 3  | 岡山  | 2  | 宮崎  | -   |
| 群馬  | 3  | 静岡  | 1  | 広島  | 12 | 鹿児島 | 1   |
| 埼玉  | 1  | 愛知  | -  | 山口  | 3  | 沖縄  | 5   |
| 千葉  | -  | 三重  | 3  | 徳島  | -  | 総数  | 303 |

都道府県別国宝建造物棟数 (2026年1月現在/文化庁資料より)

やすい傾向がある。これは当然、朽ちやすい木造建築が主役の日本で、長きにわたり風雨に耐えて残ってきた希少性が評価されているわけだが、逆により新しい建造物である明治以後のいわゆる近代建築の国宝指定はやはり少なく、なんとまだ3棟しかない。

300を数える国宝建築は、時が経つにつれ減る一方で、まさか増えることはないと思えそうだが、実は時間が流れていくにつれ、比較的新しかった建物も次第に歳を重ね、古く貴重なものとなっていくので、理論的には今後増えていくものといえる。現にこれまで重要文化財指定だった建物が、国宝に格上げされることも茶飯事で、先の3棟の国宝近代建築も、いずれも重要文化財から格上げとなったものばかりなのだ。

最初に国宝になった近代建築は東京の旧迎賓館赤坂離宮。明治42年(1909)、宮廷建築家と呼ばれた片山東熊が設計した皇太子の住居、東宮御所として建てられた。明治以後日本人が西洋建築の学習を完成させた証となる名建築として平成21年(2009)国宝に指定された。2番目は、群馬の富岡製糸場。明治5年(1872)我が国初の官営製糸工場群として建設されたもので、平成26年(2014)に一部建造物が国宝指定、同年世界遺産にも登録された。3番目は、長野県松本市に建つ旧開智学校。明治9年(1876)に完成した文明開化時代を象徴する擬洋風の小学校校舎。令和元年(2019)に国宝となった。

いよいよ擬洋風建築が国宝になる時代がやってきたのである。擬洋風建築というのは、文明開化以後、日本に初めて伝わった西洋建築を見た日本人たちが、自らの手で西洋建築を見よう見まねで造った建物で、和風とも洋風とも言える不思議な折衷式であることから擬似洋風＝擬洋風建築と名付けられた。明治初期

の役場、学校など公共施設を中心に各地に展開。試行錯誤の時代らしいクセ強な特徴からかつては異端建築扱いされていたが、近年近代建築の研究が進み、一時代を彩った様式として認知され、とうとう国宝と認められる時が来たのである。

さて、擬洋風建築が数多く残る土地として知られているのが我が山形県である。県令三島通庸の西洋化政策により、明治に入りいち早くこうした西洋風の様式を採り入れ、県内各地の郡役所がいくつも残されているのはご存知の通り。そしてその典型的な代表事例として全国にも知れ渡っているのが「旧済生館本館」というわけである。

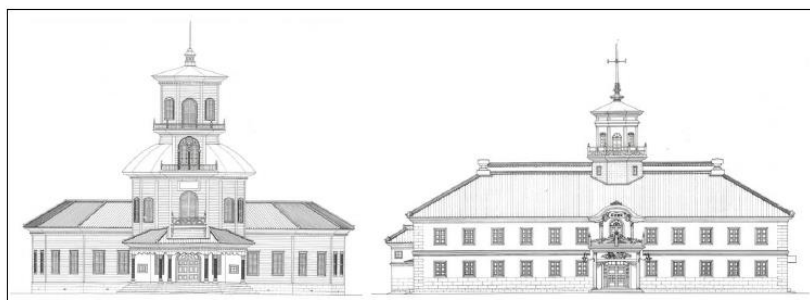
山形市郷土館としておなじみのこの建物は、明治11年(1878)に完成。三層楼と呼ばれた実質4階建ての木造建築で、擬洋風建築の中でも病院と医学校を兼ねた複合建築として全国的にも貴重なもの。とりわけ、正面の塔屋や背後に巡るほぼ円形の病室棟など国内唯一無二のユニークな形が特徴だ。羽州街道に沿った七日町、現在の済生館病院の隣接地に建てられ、昭和戦後まで現役の病院として活躍。築88年目の昭和41年(1966)に市民の保存

要望を受けて国指定重要文化財となり、翌年一旦解体されて44年(1969)に現在の霞城公園内に移り、46年(1971)から市の資料館として一般公開された。

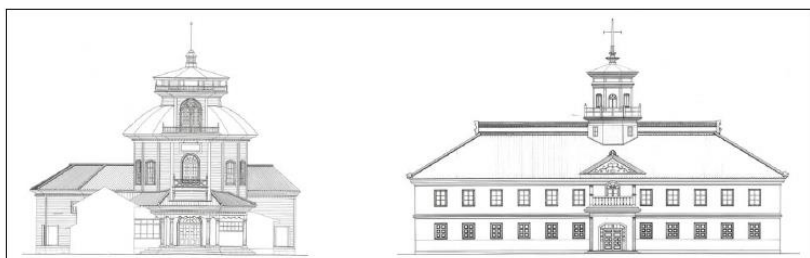
前述の通り、わずか2歳年上とほぼ同い年の旧開智学校が国宝となった今、旧済生館が次なる候補となっても決しておかしくない価値ある建築であることは疑いない。ただ、元々建った敷地から場所を変えていたり、移築時までには改変された部分も多々あり、大幅な復元工事を経て当初の姿に戻った事を懸念する方も多いかと思う。しかしご心配には及ばない、実は姉となる旧開智学校も、昭和36年(1961)85歳で擬洋風学校建築として初めて国指定重要文化財となり、38年(1963)まで現役校舎として使用後、なんと翌39年(1964)に解体の上移築され、復元工事を経て現在の姿に甦り、40年(1965)から教育博物館として公開されていたのだ。並べてみればこの2棟、なんともそっくりな経歴を持つ、まさに似たもの擬洋風姉妹建築だったのだ。(図1・2)

我々が旧済生館の令和6年度の入館者数は42,653名、その内訳を見ると実はその大半が県外からの来訪者だという。その事実は、

やはり全国レベルで見ても大変珍しく、訪れて見る価値ありな建物であることの表れとも言えるが、逆に考えると県内来訪者の比率が少ないこともちょっと気に掛かる。まだ実物をご覧になっていらっしゃる県民の皆様、もしや次なる国宝となるかもしれない貴重な山形の名建築を、次の休日には是非、ご家族やお友達を誘ってじっくりと見学、鑑賞いただき、その日に備えて大切に守り、後世に伝えるべく、その魅力を大いに広めていただきたいと思いますというのである。



擬洋風姉妹建築並べて見ると…① 移築復元後の現在の姿 (左:旧済生館本館/右:開智学校)  
・同じ縮尺で並べて見ると、「妹」済生館の方が背高で、立ち姿も個性が強い印象。(図1)



擬洋風姉妹建築並べて見ると…② 復元前 移築以前最後の姿 (左:旧済生館本館/右:開智学校)  
・どちらも保存が決まり、移築する頃には当初から大きく姿を変えていたことがわかる。(図2)

## 郷土館だより第 100 号へのメッセージ

山形市郷土館は、済生館本館の建物を活用した文化施設ですが、山形市の歴史・文化発信の拠点でもあります。山形県の県都となる以前から地域の中心的役割を担ってきた山形の地には、数多くの歴史・文化遺産が受け継がれています。第 100 号を数える「郷土館だより」が、それらの歴史・文化遺産と市民の架け橋になることを期待しています。

東海山形学園 副理事長  
山内 励

『郷土館だより』第 100 号の発行、おめでとうございます。ちょうど今年で旧済生館本館の建設を主導した山形県令の三島通庸が着任して 150 年、建物が国の重要文化財に指定されて 60 年というのも奇縁でしょうか。これからもその歴史や魅力を多くの方々に知ってもらえる媒体として機能することを期待しております。

山形大学人文社会科学部 准教授  
小幡 圭祐

「郷土館だより」第 100 号記念を祝して  
山形市立病院済生館も一昨年に設立 150 周年を迎えました。明治期の公立病院としての開設、三層楼（現在の郷土館）の落成、三条実美太政大臣による「済生館」の命名、ローレンツ博士の招請などの輝かしい歴史を刻みつつ、この七日町の地で地域住民の方々の御支援と御協力を頂戴しながら、医療を提供しております。

今後も「郷土館だより」の歩みと共に、先人たちの努力に敬意を表しつつ「健康医療先進都市の拠点病院」として尽力して参ります。

山形市立病院済生館 病院事業管理者  
貞弘 光章

国の重要文化財でありながら、私たち市民がいつでも気軽に立ち寄ることができる山形市郷土館は宝物です。最近では世界各国の方が訪れ、山形の歴史や文化が広く受け容れられていることをうれしく思います。これからも私たちの生活に溶け込み美しく佇む郷土館の魅力をたくさんの方に知っていただきたいです。

山形市立西山形小学校 教頭  
佐藤 美代子

99号で紹介した「山形アーカイブ」で「済生館」と検索してみてください。完成直後から、空襲を避けるために3階が取り除かれた姿、1967年の解体工事、復元された現在地での佇まいなど、旧済生館本館の歴史を垣間見ることができます。

これらの写真をとおして、皆様にもますます山形市郷土館への理解を深めてもらえますように。

山形大学学士課程基盤教育院 教授  
佐藤 琴

「美しい佇まいのお隣様」

第 100 号のご発刊おめでとうございます。いつも夕方、正面に郷土館を見ながら帰途についています。季節によって移り変わるその美しい佇まいに心が癒されます。今年度、両館でナイトミュージアムの日時を合わせて実施し、大変好評でした。今後とも親交を深め、互いにより多くのお客様をお迎えできればと存じます。郷土館の益々のご発展をお祈り申し上げます。

山形県立博物館 館長  
舟山 和彦

旧済生館は観光客の方に人気が高く、満開の桜に囲まれて建つ姿は私のお気に入りです。

ぜひ山形市民の皆さんも郷土館を訪れて、まちの歴史や文化を再発見し、その魅力を味わってほしいと思います。

山形市観光ボランティアガイド協会  
運営委員 須貝 恵美

